

たわわ

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



- 竹とともに
- TMOチャレンジショップのアーティストたち
- 催し物セレクション
- 私のふるさと再発見③「海宝寺のお十夜」



平塚に伝わる昔ばなしのひとつ「須賀の亀」が創作音楽劇「亀の不思議なおくりもの」として、今年9月に公演されます。

出演は、一般公募による市民劇団員。

劇団「昴」を始めとしたプロによる演出・指導のもと、舞台の成功に向け、稽古に励んでいます。

(ご案内は『催し物セレクション』)



創作音楽劇「亀の不思議なおくりもの」稽古風景

亀の不思議なおくりもの

あらすじ

時は江戸。ところは東海道、平塚、須賀湊。人で賑わう須賀の湊に亀という女の子がいた。亀は口は利けなけれど、鳥のさえずり、大地のささやきと会話し、心を通わす不思議な子。ある日、彼女の耳に大自然からの異変の音が届く。かもめたちの奇声、不気味な雲。いち早く地震に気付いた亀は、村人たちに必死で伝え大津波から人々を救う。しかし、自分は溺れていた友達の陸を助けようとして代わりに波にのまれてしまう。海から引き上げられた亀を大事に吊る人々。口が利けなくても閻魔さまに分かるよう背中に『相模国 須賀湊 亀』と書いて亀を送る。

月日はたって百年後…。時は元禄、ところ変わって江戸の城下町。旗本屋敷の娘・松の背中には、不思議な痣がある。肌に浮かんできたその痣が伝える文字は『相模国 須賀湊 亀』。

何の因果か？伝言か？

耳をすませば、きつと聞こえてくる…不思議な物語り。